

## 2017年度 入学試験問題

# 作文

## (グローバル入試)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入しなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
5. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

東京都市大学附属中学校



◎次の文章【A】【B】は、広島市の平和記念式典で、こども代表が述べた「平和への誓い」の全文です。よく読んで、あなたが感じたことを自由に書きなさい。字数は自由です。

【A】

「生きたい、そして、みんなと幸せに暮らしたい」  
そんな願いもむなしく十二歳の少女が亡くなりました。  
二歳で被爆し、十二歳で突然原爆症と診断された佐々木禎子さんは、入院生活を送りながら「生きる」ために、最期まで望みを捨てず、願いをこめてただひたすら鶴を折り続けたそうです。五十九年前の八月六日の朝も、川と緑に囲まれた広島街には、人々の変わらぬ生活がありました。戦争中とはいえ、それまでと変わらない夏の朝でした。  
しかし、一発の原子爆弾は、そんな朝を人類が忘れることができない朝に変えてしまったのです。

熱線、爆風、放射線などにより、その年の末までに十四万人もの人々が亡くなっていました。そして、その後も放射線による障害により、多くの人々が苦しみ、命を失っていきました。  
佐々木禎子さんもその一人です。

わたしたち広島の子どもは、毎年夏が近づくと、禎子さんの意思を受け継ぎ、世界の人々が幸せに暮らせることを願って鶴を折っています。  
しかし、いまだに世界のどこかで戦争が行なわれています。  
多くの人たちが日々恐怖に脅え、苦しみ、命を奪われています。  
無数に埋められた地雷によつて、多くの人々が傷ついています。  
子どもたちまでもが武器を持たされ、戦いになり立てられています。  
そして、広島を焼き尽くした核兵器は、いまだに世界に存在しています。  
戦争が生み出した悲しみは、憎しみを呼び、その憎しみがさらに深い悲しみを呼びます。  
しかし、私たちが聴いた被爆者の方々の話は、憎しみではなく「こんな思いを、もう二度と誰もしてほしくない。」という強い願いに満ちています。

私たちは、この被爆者の方々の願いを私たちの願いとし、平和な世界をつくる努力をしています。なければなりません。  
ここ平和記念公園には、毎日、日本の各地や世界中の国々から折り鶴が届けられます。その折り鶴を見ると、言葉、文化、宗教を越え、多くの人々が、平和への願いでつながっていることがわかり元氣が出ます。

私たちは、戦争も核兵器もない世界が実現し、子どもたちが平和であることに感謝の気持ちを込めて鶴を折る日が来るまで、被爆の悲惨さや平和の尊さを語り継ぎ、世界へ伝えていく努力を続けていくことを誓います。

平成十六年（二〇〇四年）八月六日

こども代表

広島市立段原小学校

六年

河田 早紀

広島市立亀山南小学校

六年

百合野光哉

【B】

「人が焼けるにおいがした」

「ある者は、肌はだが溶とけて人間には見えなかった」

原子爆弾が落とされた広島の様子を、語り部くわいぶの方は語ってくれました。

思い出したくない、胸むねが張り裂さけそうだ。

被爆ひばくされた人の辛つらさは、いつまでも、いつまでも終わることはありません。

被爆者の思いや被爆の事実を自らの体験のように、想像するのです。

聞きたくても、聞くことができなくなる日が近づいています。

一瞬いつしゅんで街まちがつぶれ、日常や夢を踏ふみにじられた

昭和二十年（一九四五年）八月六日 午前八時十五分の出来事を、

私たちは、もっと、知りたいのです。

もっと、伝えたいのです。

悲しみや苦しみを乗り越えた人々の努力によって、

広島は青く澄すんだ空の下、色とりどりの花はなが咲さく街まちに復興しました。

この広島に、今年も、世界各地から、多くの人が訪おとずれています。

あの日の事実を知るために、平和記念公園を巡めぐり、平和記念資料館を見学し、

語り部の方の話を聴きき、原子爆弾の恐おそろしさを実感しています。

そして、「あの日の出来事を伝える」と約束してくれた人たち、

平和の広がりを感じました。

私たちは、待っているだけではいけないのです。

誰が、平和な世界にするのでしょうか。

夢や希望にあふれた未来は、

ぼくたち、わたしたち、一人一人が創つくるのです。

私たちには、被爆者から託たくされた声を伝える責任があるのです。

一人一人が、自分ていねいの言葉で、丁寧ていねいに、

戦争を知らない人へ 次の世代へ 世界の人々へ  
命の尊さを 平和への願いを  
私たちが語り伝えていきます。

平成二十八年（二〇一六年）八月六日

こども代表

広島市立竹屋小学校 六年 中奥 垂穂

広島市立亀山小学校 六年 青木 優太

（広島市ホームページより）







